

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	おれんじみんと			
○保護者評価実施期間	2025年9月1日 ～ 2025年9月30日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	8
○従業者評価実施期間	2025年10月1日 ～ 2025年10月15日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月31日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童発達支援から一貫したサポートと継続的な見守りで、小学校移行も安心	日々の記録をもとに職員同士で情報を共有し、子どもの様子や課題を全員で把握。児童発達支援通所時からの園や家庭との連携を土台に、通所・活動・生活で気づいたことをすぐ共有・対応している。一人ひとりの成長や変化に合わせた見守りを積み重ねてきたため、入学後も戸惑いやつまずきに対応しやすく、長年通所している安心感がある。	記録や情報共有の仕組みを活かし、子どもの小さな変化や課題を全員で把握。周囲の大人とも密に連絡を取り合い、気づいたことをすぐ対応。見守りの中で一人ひとりの興味や得意を生かす関わりを工夫し、入学後も戸惑いやつまずきに寄り添える支援を進める。長年通所している安心感を高め、さらに信頼できる日々のサポートを目指す。
2	保護者様による送迎を活かした相談しやすいオープンな療育環境で、保護者と共に見える・伝わる療育を実感	保護者様による送迎を活かし、子どもの様子や課題を短く共有することで相談しやすい雰囲気を作っている。活動や生活での「できたこと」は丁寧に伝え、ともに喜ぶ関わりを意識。教室の構造や教材、作品、資料も見てもらい、療育の内容が分かるよう工夫している。保護者の意見や提案も取り入れ、安心して通える環境づくりを継続している。	送迎時に子どもの得意や興味を保護者と振り返り、日々の関わりに活かす。活動や生活の記録を活用し、保護者と共に成長の変化を具体的に確認する機会を増やす。教室や教材・作品・資料の見せ方も工夫し、療育の意図や学びの内容が一層分かるようにする。今後も保護者の意見を取り入れ、個々の子どもに応じた安心できる環境を整えていく。
3	SSTを通じて自己表現と社会的スキルを育む支援	SST活動で、子どもが考えや気持ちを表現する機会を増やす。ルールやマナーを守る体験を通して、集団での関わり方や社会的スキルを育てる。活動の記録を保護者と共有し、家庭でも成長を実感できるようにする。学習会・交流会・冊子で保護者同士のつながりや家庭での支援も促し、身につけた力が生活に活かされるよう工夫している。	SST活動で身につけた力を日常生活や学校でさらに活かせるよう、多様な場面での応用や発展的な体験の機会を増やし、子ども一人ひとりに合わせた支援の幅を広げ、安心して力を伸ばせる環境をつくる。保護者様も巻き込むカフェ活動などで、やり取りを通して自己表現や社会的スキルをさらに発展させ、社会の一員としての役割も体験していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	土曜午後の通所リズムを整える工夫の必要性	放課後等デイサービスが休日にゆっくり療育に取り組める一方で土曜午後の実施は家族の予定や学校行事と重なると通所のリズムが乱れるときがある。	土曜午後でも通所のリズムを保てるよう、時間配分や活動内容を工夫し、子どもや家族の予定に配慮する。いつ来ても楽しく充実した活動があり、「おれんじみんとに行きたい」「大好きな先生や友だちと会いたい」「できることが増えてうれしい」と思える環境をさらに整えていき、今後も継続と安心感を支える取り組みを進めていく。
2	家族支援をよりよくする工夫	きょうだい・家族支援については、基盤は整いつつあるものの、参加人数をさらに増やしていく余地がある。また、新たな取り組みを試みている段階で、継続的に実施しつつ、保護者様のご意見も反映させながら、参加してみたいくなる行事づくりを進めていく必要がある。	今後も、整えてきたきょうだい・家族支援の基盤を活かして、参加人数を増やす工夫や、保護者様同士・職員との交流、保護者向け学習会、きょうだいも参加しやすい行事、療育で子どもと一緒に楽しめる工夫などを、保護者様のご意見を反映しながら、職員でアイデアを出し合い、参加してよかったと思える行事を目指して継続的に進めていく。
3			

事業所名

おれんじみんと

公表日

2026年1月31日

利用児童数

8

回収数

8

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	8	0	0	0	少人数での療育のため、スペースは活動に合わせて使われている。	活動内容と子どもの動きを生かした場面設定を工夫し、落ち着きと活動性を両立できる環境を整えていく。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	8	0	0	0	先生の数は多いと思う。	先生の人数の充実を活かし、子どもたちが安心して過ごせる支援をさらに深めていく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	8	0	0	0	きれいに整理整頓されており、子供にとっても判りやすい配置になっているので、勉強になる。	整理整頓と分かりやすい構造化を継続し、子どもが主体的に活動できる環境を維持する。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	8	0	0	0	安心して過ごせる。	安心して過ごせる清潔な環境を保ち、活動に合わせた空間づくりを継続する。
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	8	0	0	0	親の気づかないところまでよく見ていただき、支援が受けられていると思う。	保護者が気づきにくい点にも目を向け、できることを着実に増やすための丁寧で専門性の高い支援を継続していく。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	7	0	0	1	詳しく説明している。	支援内容とプログラムの整合性を保ち、分かりやすい説明を今後も丁寧に行う。
	7	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	8	0	0	0		日々の療育の積み重ねを客観的に整理し、課題と強みを明確にした計画づくりを充実させていく。
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	7	0	0	1		
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	7	0	0	1		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	7	0	0	1	いろいろなSSTをやっている。	多様なSSTを取り入れ、活動が固定化しないよう今後も工夫と改善を重ねる。
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	3	1	1	3	療育の時間に不要。(複数意見)	併行通学による地域での交流を尊重し、事業所では療育の質向上に努めていく。療育の質を優先しつつ、地域交流の必要性については引き続き検討していく。
保護 者へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	8	0	0	0		
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	7	0	0	1		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	8	0	0	0	とても良い場を提供してもらい、出合いの場が広がっている。	家族が安心して参加できる交流や学びの場を今後も継続し充実させていく。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	8	0	0	0		対話の機会を積極的に設け信頼を育みつつ、日々の様子を共有し、成長や健康面の変化をわかりやすく伝えていく。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	8	0	0	0		定期的な面談や助言の機会を大切に安心して相談できる関係づくりを続けていく。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	8	0	0	0		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	8	0	0	0		家族やきょうだい同士がつながれる機会を大切にし、通信等での情報共有も含め支援を充実させていく。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	8	0	0	0	学校の相談事をいちमुすぐ対応してもらって感謝している。	相談や申入れには迅速に対応し、学校との連携も含め丁寧な支援を続ける。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	8	0	0	0		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	8	0	0	0	工夫していろいろな方法で発信している。	通信やSNSなど多様な方法を活用し、分かりやすい情報発信を継続強化する。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	7	0	0	1		個人情報大切に守る姿勢を職員間で確認し安心頂ける管理体制を継続していく

		チェック項目	はい	どちらとも いいえ	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	7	0	0	1	毎年、たくさんの訓練を実施し、お知らせをいただき、安心している。	各種訓練を継続実施し、その内容を丁寧に周知して安心につなげていく。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	8	0	0	0		訓練内容を見直しながら実施を継続し、より安心できる環境づくりを進めていく。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	8	0	0	0		安全計画の取組を伝えつつ、実践的な訓練を重ね、安心できる支援を続けていく。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	7	0	0	1		安全配慮を積み重ねながら、状況に応じた分かりやすい連絡と説明を心がける。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	8	0	0	0	私自身も子供も信頼して、安心できる先生たちである。	信頼関係を大切にし、子どもと保護者が安心できる環境を今後も維持する。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	7	1	0	0		安心して通える雰囲気づくりを大切に、安定した通所リズムの形成に努めていく。
	29	事業所の支援に満足していますか。	8	0	0	0		保護者と喜びを分かち合いながら、子どもの力を伸ばす温かな支援を深めていく。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		おれんじみんと		公表日		2026年1月31日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	1	増加する教具を整理分類し、活動ごとに配置を調整しながら子どもが安全かつ主体的に動ける空間づくりを行っている。	活動内容や利用人数の変化に応じて配置を見直し、空間の有効活用を継続していく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	8	0	常勤職員を基準以上に配置し、多角的な専門視点から子どもの状態を共有しながら安定した支援体制を整えている。	職員間の情報共有を維持し、子どもの変化に応じた柔軟な体制づくりを続ける。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	1	構造化を意識した空間設定と視覚支援を行い、障害特性に配慮した環境整備を実践している。	表示や導線を再確認し、より分かりやすく安全性の高い環境づくりを継続する。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8	0	清掃・整理整頓を徹底し、活動内容に合わせて空間を調整しながら安心して過ごせる環境を整備している。	衛生管理と安全確認を継続し、快適な環境を安定して維持する。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	3	落ち着ける個別スペースを確保し、子どもの状態や希望に応じて柔軟に活用できる体制を整えている。	多様な活動を自由に行いやすくする工夫の余地がある。限られた空間を工夫し、活動や気持ちに応じて選べる環境づくりを充実させていく。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8	0	職員全員が目標設定と振り返りに参加し、PDCAを意識した業務改善に取り組んでいる。	振り返り内容を共有し、現在の改善サイクルを継続的に維持する。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0	保護者評価の意見を会議で共有し、具体的な改善策を整理して支援内容に反映している。	評価結果の活用を継続し、小さな改善を積み重ねていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0	職員が意見を出しやすい雰囲気を整え、話し合いを通して業務改善を進めている。	意見交換の機会を維持し、実行可能な改善を積み重ねる。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	8	第三者評価は未実施だが、外部助言やアンケート結果を取り入れ質向上に活かしている。	外部からの意見を今後も積極的に取り入れ、支援改善に反映させる。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8	0	内部研修を体系的に実施し、外部研修の学びも共有して支援力向上を図っている。	研修内容を日々の実践へ反映し続け、専門性を高める。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8	0	支援プログラムを公表し、ねらいを職員間で共有して活動計画に活かしている。	内容確認を定期的に行い、活動との整合性を保つ。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8	0	面談や日々のやり取りを通して保護者の意向を把握し、職員間で協議を重ねて計画に反映している。説明と確認の機会も確保している。	今後はニーズの背景まで掘り下げ、振り返りを通してより具体的で実効性の高い計画へと高めていく。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8	0	児童発達支援管理責任者を中心に職員みんなで意見を出し合い、お子様にとっていちばん良い支援は何かを考えながら計画を作成している。	子ども本人・保護者の思いや目標をより丁寧に取り入れ、定期的な評価と職員間の共有を充実させ、計画の実効性をさらに高めていく。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	0	支援計画を軸にしながら思いを共有し合い、子ども一人ひとりの笑顔につながる関わりを育てている。	共有体制を維持し、支援の統一性を保つ。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8	0	改訂を重ねたアセスメントシートを活用し、5領域を踏まえ多面的に評価している。	評価基準を再確認し、継続的な確認体制を維持する。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8	0	本人・家族・移行・地域の視点を取り入れ、具体的支援内容を計画に反映している。	将来を見据えた支援視点を維持し、計画の具体性を保つ。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8	0	活動プログラムはチームで立案し、専門性を活かして内容を充実させている。	チーム立案体制を維持し、柔軟な活動展開を継続する。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8	0	活動が固定化しないよう5領域を意識し、内容や方法を随時見直している。	活動の柔軟性を保ち、子どもの興味に応じた工夫を続ける。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
適切な支援の提供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8	0	子どもの状況に応じ個別と集団活動を組み合わせ、計画的に支援している。	活動バランスを確認し、現在の支援構成を維持する。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	0	支援前に必ず打合せを行い、役割分担や最新情報を共有してから療育を開始している。	打合せ体制を維持し、連携の質を保ちながら継続する。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	0	支援後に必ず打合せを行い、その日の関わりを振り返り、気づきや変化を共有し次の支援に生かしている。	今後は打合せの時間をより充実させ、子どもの背景や意図まで踏み込んで振り返ること、気づきの共有をさらに深めていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	0	日々の支援記録を活用し、成功事例や課題を検証して改善につなげている。	記録内容の充実を意識し、検証体制を維持する。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8	0	定期的なモニタリングを行い、成長や変化に応じて計画を見直している。	保護者意見も踏まえ、見直し体制を維持する。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6	2	4つの基本活動を意識し、それぞれを単独で行うのではなく、複数を組み合わせ相互に関連するよう工夫ながら支援を実施している。	4つの基本活動について職員で改めて確認し、毎日の活動がどれにあたるかを意識しながら振り返り、支援の質を高めていく。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6	2	活動選択の機会を設け、自己決定する経験を大切にしながら支援を行っている。	選択肢の提示方法を工夫し、自信につながる経験を重ねられる支援を充実させていく。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	0	状況を理解した職員が会議に参加し、情報を全体で共有している。	連携体制を維持し、情報共有を継続する。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8	0	医療・教育・福祉機関と連絡を取り合い、背景を踏まえた支援を行っている。	関係機関との情報交換を継続する。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5	3	土曜日などのみの開所で送迎は行っていないが、保護者を通じて必要に応じ学校と情報共有を行っている。	保護者との連携を基に、必要に応じて学校との情報共有や連絡調整を継続・充実させていく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	8	0	保育所等と情報共有を図り、移行支援や相互理解を進めている。	関係機関との共有機会を維持する。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	8	0	移行時には支援経過を整理し、次の事業所へ情報提供している。	引き継ぎ体制を維持し、円滑な移行支援を継続する。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	7	1	児童発達支援センターと連携し、助言や情報を支援に活かしている。	連携関係を維持し、必要に応じて相談や助言を受けられる体制を継続・充実させていく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	7	1	地域の子どもと関わる機会が日常的にあり、社会性の育成につながっている。	地域との関係を維持し、交流機会を継続する。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5	3	参加できる機会がある際には出席し、地域の情報収集に努めている。	参加方法を工夫し、可能な範囲で継続的な関わりを図っていく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8	0	日常的に保護者へ様子を伝え、発達状況や課題の共有を行っている。	信頼関係を維持し、情報共有を継続する。
保護者への説明等	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8	0	家族支援や研修を通じ、家庭での関わり方向上を支援している。	支援機会を維持し、継続的な学びを支える。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	2	契約時に規程や負担額を説明し、質問にも個別に対応している。	説明内容の共通理解を深め、対応力を維持する。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8	0	面談で意向を確認し、最善の利益を踏まえた計画を作成している。	意向確認の機会を維持し、計画への反映を続ける。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8	0	計画を提示し内容を説明したうえで同意を得ている。	説明体制を維持し、理解の確認を継続する。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8	0	家族からの相談に応じ、内容を共有しながら支援に反映している。	相談体制を維持し、適切な助言を継続する。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	8	0	保護者会やきょうだい支援を実施し、交流機会を確保している。	継続実施し、交流の機会を安定して保つ。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8	0	苦情対応体制を整備し、状況に応じて迅速かつ適切に対応している。	相談しやすい環境を維持し、対応体制を継続する。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7	1	通信やHPで活動や行事を発信し、情報公開に努めている。	発信体制を維持し、更新を継続する。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	0	個人情報情報はルールに基づき管理し、研修で意識向上を図っている。	管理体制を維持し、遵守意識を保つ。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8	0	特性に応じた方法で情報伝達を行い、意思疎通に配慮している。	配慮ある伝達方法を維持する。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8	0	地域ボランティアとの交流を通じ、地域理解の広がりを図っている。	地域との関係を維持し、交流を継続する。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8	0	各種マニュアルを整備し、想定訓練を実施して安全管理を徹底している。	マニュアル確認と訓練を継続する。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8	0	BCPを策定し、実際の場面を想定した避難・救出訓練を定期的に実施し、職員の対応力を高めている。	訓練体制を維持し、防災意識を保ちながら内容の見直しを重ね、実効性をさらに高めていく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8	0	服薬や発作状況を事前確認し、変更時は速やかに共有している。	情報更新体制を維持する。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8	0	医師指示書に基づきアレルギー対応を行い、研修で確認している。	安全対応を継続し、確認体制を保つ。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	0	安全計画に基づく訓練を実施し、命を守る意識を高めている。	安全意識を維持し、訓練を継続する。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8	0	安全計画内容を通信等で家庭へ周知している。	家庭との連携を維持する。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8	0	ヒヤリハット事例を共有し、再発防止策を検討している。	共有体制を維持し、未然防止を継続する。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8	0	虐待防止研修を実施し、事例を通して理解を深めている。	研修体制を維持し、意識向上を図る。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8	0	身体拘束を行わない方針を共有し、療育的支援で対応している。	方針共有を継続し、適切な支援姿勢を維持する。